

第31回あすなる夢建築 大阪府公共建築設計コンクール 入選作品集

主催 大阪府 公益社団法人 大阪府建築士会 大阪府住宅供給公社

後援 大阪府教育庁 一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会

協賛 一般社団法人 日本建築協会
一般社団法人 大阪府建築士事務所協会
公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部 大阪地域会
一般財団法人 大阪建築防災センター
一般財団法人 日本建築総合試験所
一般社団法人 公共建築協会
公益社団法人 日本建築積算協会 関西支部
公益財団法人 建築技術教育普及センター 近畿支部

「あすなる夢建築」大阪府公共建築設計コンクール事務局
大阪府建築部公共建築室計画課
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16
TEL：06-6941-0351（代表） 令和4年3月発行

テーマ 季節を感じる集いの場
課題 大阪府営吹田古江台住宅の集会所

コンクール概要

このコンクールは、小規模な公共建築物を題材とした実践教育の場を提供することにより、将来の建築技術者の育成を図るとともに、永く府民に愛され親しまれる公共建築づくりを推進することを目的として、府内の建築を学ぶ高等学校生、専修学校生などから提案を募集し、グランプリに選定された作品の提案趣旨を活かして事業化を行うものです。

テーマ 季節を感じる集いの場

課題 大阪府宮吹田古江台住宅の集会所

主な設計条件

- [所在地] 吹田市古江台4丁目
- [計画地面積] 約 1,100 m²
- [床面積] 250 m²以下
- [構造] 木造(一部混構造可)
- [規模] 平屋建て1棟(地下なし)

作品受付期間

令和4年1月6日(木)～1月13日(木)

応募状況

- [応募校数] 15校
- [応募作品数] 211点(うち 第1部47点、第2部164点)
- [応募者数] 223人(うち 第1部47人、第2部176人)

第1部(計6校)	
大阪府立今宮工科高等学校	大阪府立西野田工科高等学校
大阪市立工芸高等学校	大阪市立都島工業高等学校
堺市立堺高等学校	堺市立堺高等学校定時制課程

第2部(計9校)	
大阪建設専門学校	修成建設専門学校
大阪工業技術専門学校	中央工学校 OSAKA
大阪府立北大阪高等職業技術専門学校	大阪府立大学工業高等専門学校
大阪芸術大学附属大阪美術専門学校	日本理工情報専門学校
近畿職業能力開発大学校	

応募資格

大阪府内に所在する学校のうち、学校教育法の規定による工業高等学校(工科高等学校)・短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校及び、職業能力開発促進法に基づく高等職業技術専門校の建築関連学科に在籍する学生・生徒であり、個人又は3名以下のグループ(共同制作)での応募とした。

募集区分

- [第1部] 工業高等学校(工科高等学校)に在籍する生徒
- [第2部] 短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校及び、高等職業技術専門校に在籍する学生

入選作品と賞

グランプリ1点、準グランプリ1点、優秀作品賞2点、佳作3点、奨励賞3点の計10点を入選作品として選出。ただし、第1部と第2部からそれぞれ2点以上の入選作品を選出することとした。

作品展示

[場所及び期間]
大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー) 2階エントランスホール
令和4年2月24日(木)から令和4年3月24日(木)まで

審査会の様子



審査委員

- [審査委員長]
岩田 章吾
(武庫川女子大学生生活環境学部生活環境学科教授)
- [審査委員]
下村 泰彦
(大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科教授)
- 角田 暁治
(京都工芸繊維大学 デザイン・建築学課程教授)
- 堀部 直子
(株式会社 Horibe Associates)
- 星野 博信
(大阪府建築部住宅経営室住宅整備課長)
- 植野 甚一
(大阪府建築部公共建築室長)

総評

本年度も多くの応募をいただきました。高校生の部である第1部と専修生等の部である第2部のそれぞれから多数の応募があったことも喜ばしい限りです。本コンクールの価値が広く知られた証であると思います。
今回は団地の中心の丘の上に建つ集会所ということで、外構デザインや外構と建築との関係が重要となる課題でした。また、木構造を指定した点も課題として特徴のある点でした。多くの方がしっかりとこれら課題に取り組んでくれた点は大変うれしく思います。
当設計競技は、実施を前提としていますので、コストや管理の面の優劣が審査に大きく影響します。しかしその反面、審査員の先生方は、若い発想による伸びしろのある案を発掘したいと思っています。タイトルのとおり夢のある案を探しています。難しいコンペですが、皆さんの一層の頑張りに期待します。
最後になりますが、本紙面を拝借して、入賞された皆様へのお祝いと、このコンクールに作品を提出された皆様、そしてそのご指導に当たられた先生方のご努力に対する御礼を申し上げます。

(グランプリ) ^{かはら} ^{ちな}
榎原 千奈

プレゼンテーションも明快でドローイングの雰囲気もよく総合的な完成度が高い作品。エントランス横のパーゴラ、廊下に面した縁側、ウッドデッキの計画により外部との関係性に調和がとれており好印象。外観からも木造であることがわかる計画となっており木造・木材利用の良さを生かした親しみやすいデザインが良かった。

(準グランプリ) ^{あかほり}
赤堀 さくら

山桜を取り囲むようU字にレイアウトすることで、周辺に開かれた印象を作り出すと共に各室の認識がしやすくコミュニティの一体感を感じさせられる良いプラン。ただし、配置計画において南側の広場とのつながりが弱く感じられる。複雑なプラン形状で建設費用が高くなる懸念があるためグランプリに一步及ばなかった。

(優秀作品賞) ^{おかざき} ^{はるな}
岡崎 春菜

シンプルで手堅くコンパクトにまとまっており実現性の高いプラン。季節を感じる集いの場となるよう四季を演出する木々の丁寧な外構の植栽計画が評価できる。ただし、案としてはこれまでの集会所の在り方を超える提案にける点が残念であった。コミュニティルームの北面の壁をガラスにすると玄関からの廊下も明るく、南への抜けもできてさらに魅力の向上が考えられる。

(優秀作品賞) ^{かわぐち} ^{だいち}
川口 大地

コミュニティルームの南北の大きな開口を開けると建築化して一体化した階段ベンチ、広場、そしてコミュニティルームからウッドデッキを通して南側の庭へと抜ける内外の空間の連続性がとても魅力的なプラン。ただし、外構計画の提案が不十分な点や、和室に対するデザインの提案が不明確な点が残念。

(佳作) ^{ふじい} ^{ななせ}
藤井 七星

中央にライトウェルを設けハイサイドライトから光の入るロビーが魅力的な作品。敷地北部分に十分な緑地を取り建物までのアプローチにゆとりを感じさせる配置や、中庭が訪問者の移動と視線の受けとなり建物内部へ誘導している点、建物の周辺スペースを中間領域として丁寧にデザインしている点が評価できる。落ち葉を考慮すると陸屋根の形状については、再考の余地があるといえる。ホール部分はもう少し広くすることで、コミュニケーションが生まれ交流の場とすることが出来る。

(佳作) ^{うへだ} ^{なおき}
上田 直輝

中庭を囲むように風車状に配置した四枚の壁が建築的な魅力にあふれ美しい。壁で視線をコントロールすることにより、各スペースの景色を全く異なるものにし、来館者に驚きと楽しみを与えられる点が良い。ただ、モダニズムの手法としての既視感にあふれた構成や外構のデザインがほとんどなされていない点が残念である。斜めにふった配置が、そのデザインの魅力を弱めているよう感じられたため軸線は素直に敷地の長手方向に平行にしたほうが良い。

(佳作) ^{ふくだ} ^{すず} ^{きいれ} ^{みう}
福田 紗々・喜入 美羽

丁寧に考えられておりプレゼンテーションの能力が高く、諸室の平面計画もまとまっている。架構までしっかり考え、木材ルーバーを全面に配し木造建築らしさを前面に出した魅力が伝わってくる。しかし、断面的にかなり大きな屋根裏空間を設けることの説得力があまり感じられない。利用者だけでなく、公園利用者も立ち入れるような工夫があればさらに魅力が向上する。

(奨励賞) ^{にった} ^{いくま}
新田 郁馬

敷地南側に十分な広場を確保し、南の広場との利用面、空間イメージ面で連続性を創出している点が評価できる。玄関から芝生広場へと抜ける南北軸を中心としたシンメトリーな構成が徹底されており潔い。明快なプランで広い廊下を中心に利用しやすい計画となっており廊下空間を活用できるよう配慮した良案である。季節は、年中行事でも感じられるものとして提案してくれたことはおもしろい。軒先をもっと伸ばすなど、外部に対しても魅力ある提案があれば更によかった。

(奨励賞) ^{すなの}
砂野 ななみ

施設西側に十分な緑地と南北に抜ける園路を取っており、南接する広場との移動を確保している点が良い。L型に展開する外部廊下と屋外コミュニティルームが気持ちよさそうである。コミュニティルームは、桜並木の遊歩道を俯瞰するように配置され、遊歩道からは施設を注視させる場となっており周辺へのアピールを狙った大胆で魅力的な案である。しかし、計画地内に設計するという課題条件から逸脱している点、構造面、コスト面、機能面においてはマイナスの評価をせざるを得ない。

(奨励賞) ^{いとう} ^{あかり}
伊藤 朱里


連続する大きなヴォリュームに光と風があふれる魅力的な案である。南東に大きく広場を設け、ウッドデッキを外周部に回しているため、靴を脱いで入らなくても気軽にウッドデッキに腰掛けられ、利用しやすい点が良い。玄関からコミュニティルームへと至る空間が冗長的なことがこの案の魅力でもあり弱点でもある。各室の機能の独立性と連続性の両立を再考されたい。片流れ屋根による高い天井の空間とロビー空間とコミュニティルームが流動的に連続している点が魅力的であるが運用的視点から懸念が残る。また、和室の屋根の向きはデザイン上も、雨仕舞上も疑問が残った。ウッドデッキは南側の広場に向けても続いているとより良い。

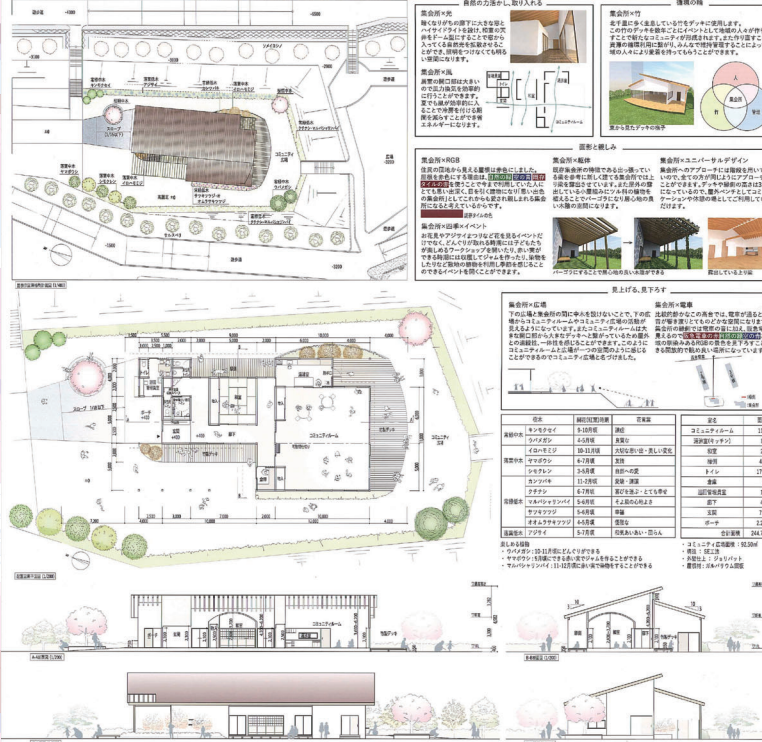
グランプリ・準グランプリ・優秀作品賞

RGB古江台
— 後世に繋ぐ集会所 —

高齢者の生活を支える場として、ここから見える風景を楽しむこと、ここから見える風景を楽しむこと、ここから見える風景を楽しむこと。

2-17





RGB古江台

高齢者の生活を支える場として、ここから見える風景を楽しむこと、ここから見える風景を楽しむこと、ここから見える風景を楽しむこと。

グランプリ

かしはら ちな
榎原 千奈

大阪工業技術専門学校

「RGB 古江台 - 後世に繋ぐ集会所 -」

既存集会所の面影を残しつつ、木造の良さを引き出し、ここから見える風景を楽しむこの集会所には2つのRGBが存在しています。1つは赤い屋根+豊かな緑+青い空からなる「集会所としてのRGB」、もう1つはこの集会所から見える赤い電車+豊かな緑+青い空からなる「地域としてのRGB」です。このように地域との関連性が高い要素がたくさんあるこの集会所だからこそ、子どもから高齢者まで幅広く愛され親しまれる集会所になり、新たなコミュニケーションの場となります。


優秀作品賞

おかざき はるな
岡崎 春菜 堺市立堺高等学校定時制課程

「季節の移ろいを楽しむ 四季彩庵」

RGB古江台
— 後世に繋ぐ集会所 —

1-32






四季彩庵

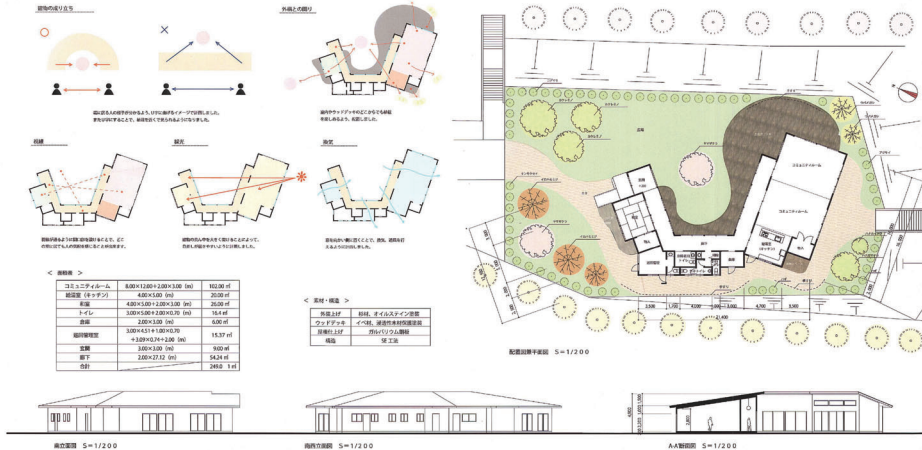
季節の移ろいを楽しむ

庭には四季を演出する木々を、花をつける木々は「花林(かりん)」、香りの良い木々には「香の木立」、美しい紅葉を見せる木々には「彩苑」、実を結ぶ木々には「実りの木」と名付け、それぞれグループごとに庭に配置しました。また、建設予定地の外の斜面には、比較的メンテナンスの必要ない水仙、芝桜、菜の花を植えて四季の変化を強く感じられるようにしています。

RGB古江台
— 後世に繋ぐ集会所 —

2-58





U

準グランプリ

あかほり
赤堀 さくら

大阪工業技術専門学校

「U」

現地調査を行ったとき、周りの植栽に囲まれた閉鎖的な空間が寂しく感じつつ、自然の中の、静かで穏やかな時間を過ごせる、そんな冷たくも心地良い空間が印象的でした。この集会所は、建物に囲われつつ、自然を感じる場所を目指しました。

東側には阪急電車が通っており、また造成後には染井吉野が植えられる予定です。そういった景色を眺められるよう、東側に向かって開放的になるよう、U字の建物を考えました。建物について、それぞれの主要な室からは、植栽が眺められるよう配置しました。また、通風に配慮するため、片廊下型にしました。そして採光のため、片流れ屋根にしました。また外構として広いウッドデッキを配置し、それぞれにお花見デッキ、お花見縁側、休憩スペースと名前をつけました。お花見コーナーは廊下や和室と繋がっているため、内に居るようで外を感じることが出来る空間になっています。お花見としてだけでなく、本を読んだり、お昼寝をしても良いですし、気分転換にデッキでレクリエーションを行うこともできます。外装はカーボンニュートラルな社会にすべく、木をふんだんに使いました。自然いっぱいのU字集会所で、利用者の方々がそれぞれの過ごし方でリラックスできる場所になれば良いなと思っております。


優秀作品賞

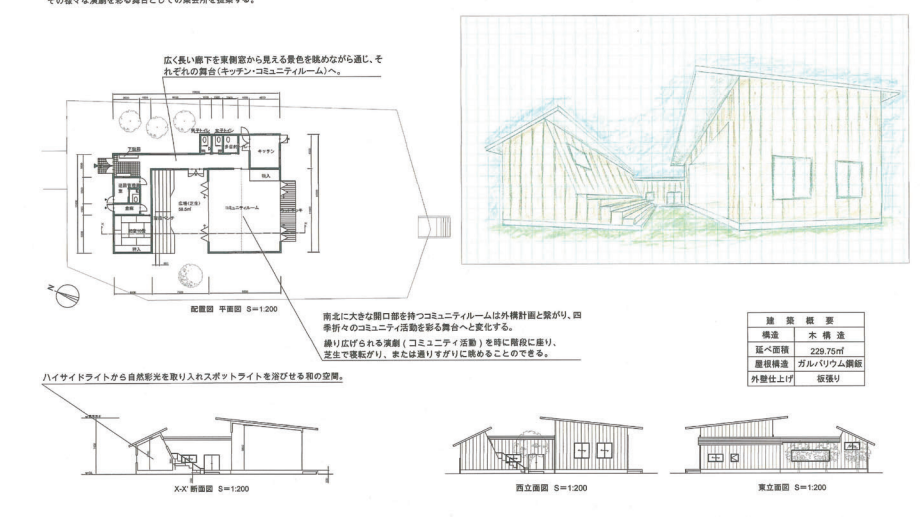
かわぐち だいち
川口 大地 修成建設専門学校

「集会劇場〜誰もが主役、誰もが観客、彩る舞台〜」

RGB古江台
— 後世に繋ぐ集会所 —

2-92





集会劇場
〜誰もが主役、誰もが観客、彩る舞台〜

人は誰しも一人一人全員が自分の人生の主役であり、他人の人生の観客である。話す、遊ぶ、勉強する、読書するなど人々の行動、その一コマは人々のコミュニティで繰り広げられる演劇であり、その様々な演劇を彩る舞台としての集会所を提案する。

佳作・奨励賞

佳作

奨励賞



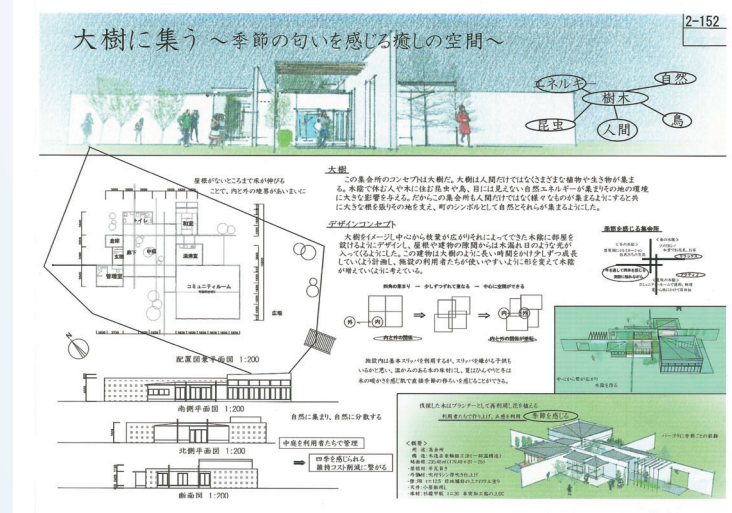
大阪市立工芸高等学校 「OPEN SPACE×NATURE 自然とつながる集会所」

人と人との関わり合いが自然に生まれる空間が今こそ必要だと思う。そこで、「自然」とつながり、「自然と」つながる集会所を提案する。
この集会所では、廊下の代わりにロビーを設けた。そうすることで、ロビーを中心に利用者は移動するので「自然と」利用者がロビーに立ち止まり、会話が弾むようにと願い、このような設計にした。また、この集会所の入口には扉が存在しない。だから、利用者はスムーズに入ることができると同時に、中の様子が外からもよく見えるので若い人にとって集会所は利用しにくい場所という

概念を取り除くことができると考えた。こうなってくると心配されるのは防犯面でしょう。そこで、オープンな空間を創るために、シャッターで戸締りをするようにした。だが、レールがあるとオープンな空間が阻害されてしまう。だから、レールを戸締りの時に地面にはめ込みシャッターを閉められるようにした。そして、庭にはソメイヨシノやキンモクセイ、ヤブツバキ、イロハモミジなどを植えているので歩きながら季節が感じられる。また、庭に『ふれあい広場』として休憩場を設けた。ここでは、ソメイヨシノを中心にウッドデッキがあり、高さ90cmの壁で仕切られた8つの空間がある。ここで、人々はゆったりとしながら自然を感じられるだろう。この集会所がいつまでも人々に親しまれることを祈っている。

佳作

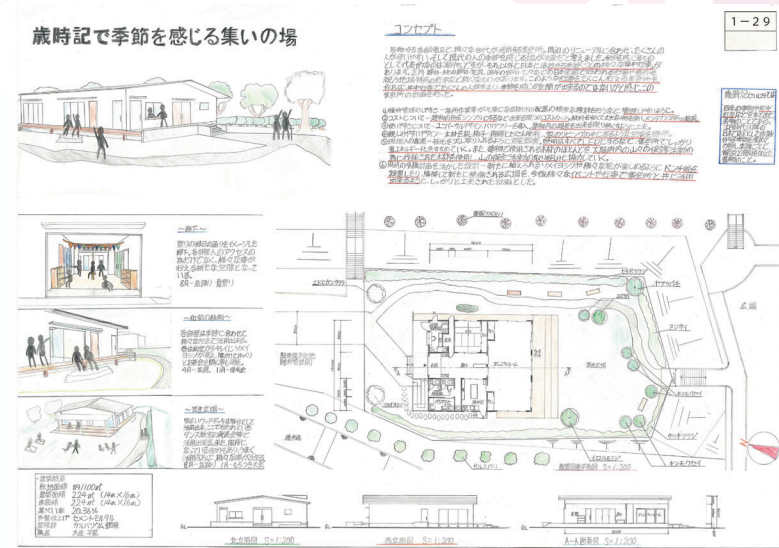
この集会所のコンセプトは大樹だ。大樹は人間だけではなくさまざまな植物や生き物が集まる。木陰で休む人や木に住む昆虫や鳥、目には見えない自然エネルギーが集まりその地の環境に大きな影響を与える。だからこの集会所も人間だけではなく様々なものが集まるようにすると共に大きな根を張りその地を支え、町のシンボルとして自然とそれらが集まるようにした。



佳作

大阪建設専門学校 「こもれび」

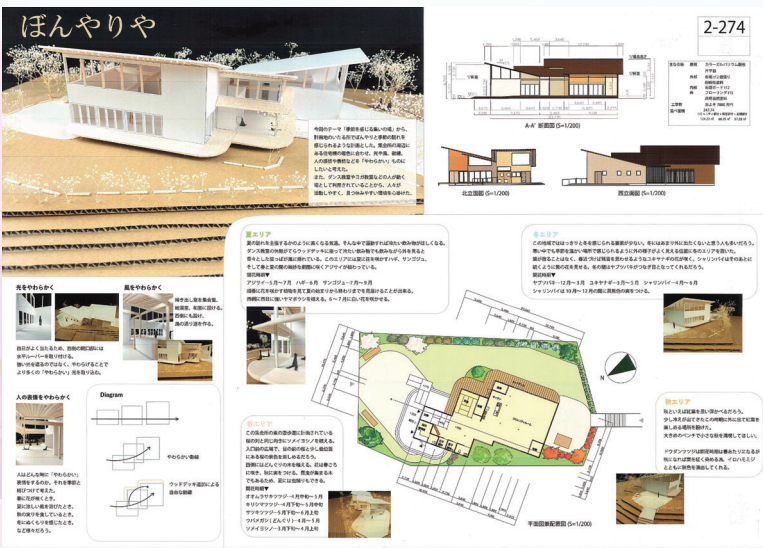
こもれびのようなキラキラとした暖かい空間。その中にみんなが集い談笑し日が昇ると、またそれぞれの場所に帰っていくような集いの場。



奨励賞

大阪工業技術専門学校 「結 (ゆい)」

コミュニティルームでは、室内と繋がるように半屋外のウッドデッキを設け、気候の良い日にはそこでヨガやダンス、集会などの活動を行うことができます。室内では行うことが難しいDIY活動やペインティングなども出来ます。引き戸を開け3つに分かれたコミュニティルームを一体として使うことも出来ます。またこの土地を生かし、コミュニティルーム①の一部を法面に突き出すことで、郊外にはないツリーハウスの様な雰囲気を楽しめます。広場には木を囲うようにベンチがあり、四季が感じれる緑の中でランチなどをすることが出来ます。用がなくても、人々が集う様な場になっています。集会場のウッドデッキもベンチの様に腰掛けることが出来ます。そして、屋外コミュニティルームを舞台とし、広場のベンチを客席に小さな公演を行う事も出来ます。あえて玄関は作らず、どこからでも入れるようになっています。オープンにする事で活動の様子が分かるので参加するきっかけにもなり、地域の人同士の顔を合わせる機会も増えるので、新たなコミュニティが生まれます。



奨励賞

近畿職業能力開発大学校 「ぼんやりや」

今回のテーマ「季節を感じる集いの場」から、計画地のいたる所でぼんやりと季節の訪れを感じられるような計画とした。集会所の周辺にある住宅棟の暖色に合わせ、光や風、動線、人の感情や表情などを「やわらかい」ものにしたいと考えた。また、ダンス教室やヨガ教室などの人が動く場として利用されていることから、人々が活動しやすく、且つ休みやすい環境を心掛けた。